

中谷 元 衆議院議員 ～国家と憲法について～

先の衆議員選挙より、憲法改正が論議されているが、そもそも憲法を改正する必要性を、多くの方に理解して頂く事の難しさを感じました。今回の講義を聞いて、憲法が必要だった事や今の日本国憲法が出来るまでの歴史的背景を考えると、やはり60数年も変わらなかった事に疑問を感じました。国の骨格でもあり、国家の中枢をしめる憲法改正を簡単なワンフレーズで改正の必要性を伝える難しさも再度感じました。

私たちの世代は、学校教育現場でも憲法を正しく学び理解する授業を受けていません。そんな中、選挙の争点として憲法改正、特に96条先行論とか9条改正をマスコミ等で見聞きしてしまうと、更に混乱してしまいました。

今回の講義で理解が深まった事は、戦後（戦後の定義は様々）60数年、我が国日本は大きな戦争に巻き込まれる事無く、更にはアジアの中でも経済的に成長し、周辺各国との経済的な格差により、相手からの攻撃や侵犯を受ける恐怖は感じる事は有りませんでした。しかし、近年周辺各国が経済発展に伴う、ミサイル開発の恐怖や、幾度も繰り返される領海侵犯などを経験しはじめて、今までの平和に気付き、それを守ってくれたのが憲法では無く、逆に憲法によって活動の制限など多くの問題が有ると言う事も分かりました。

大きな問題で、しっかりとした議論を重ねられるように今後も憲法について見識を高めたいと思いました。